



## ORANGE LIVING BASE

住 所：福井県福井市田原1-2-20  
敷地面積：496.62㎡[150.26坪]  
用途地域：近隣商業地域、準防火地域  
工 期：2016年6月上旬～2017年4月上旬  
工事種別：新築工事  
構造規模：鉄筋コンクリート造、地上3階建て  
(耐火建築物)  
建築面積：358.88㎡  
1階床面積：318.95㎡  
2階床面積：285.73㎡  
3階床面積：37.83㎡  
延床面積：642.51㎡  
設 計：上遠野建築事務所 所長 上遠野 克  
札幌市南区川沿9条2-1-23

### オレンジホームケアクリニック

在宅療養支援診療所

(緊急往診は365日24時間対応)

定期訪問診療 平日9時～17時

Tel 0776-21-3333 (9～17時)

## 住み慣れた場所で幸せに自分らしく生きていく

2011年2月。私たちは在宅医療を通して、老いても病んでも、誰もが「Happy!」に最期まで自分らしく過ごし続けられる地域をつくるため、活動を始めました。現在、多職種およそ60名で24時間365日、250名近い方々の在宅療養に寄り添わせていただいています。



これから迎える超高齢化社会は、医療や介護だけで支えることはできません。日々の暮らしに焦点を当てた時、人々の生活を支えているのは、近所の食品スーパーやコンビニ、銀行、郵便局、バス、タクシーなど多様な地域資源です。そしてその地域に住む1人1人もまた、互いに助け合いながら暮らしています。

新たな事務所“ORANGE LIVING BASE”は、地域に暮らす人々が出会い、つながり、ともに支え合いながら、笑顔で生きていくための拠点です。あなたが元気だと、あなたの周りの人も幸せになる。これまでどんな人生を歩み、これからどう生きていきたいか、あなたの物語を聞かせて下さい。私たちはいつでも笑顔でお迎えます。お気に入りのイスに腰掛けて、一緒にお茶でも飲みませんか？

あなたの物語にそっと寄り添う

オレンジホームケアクリニック 代表 紅谷 浩之



item: Egg chair  
designer: Arne Jacobsen

episode: コペンハーゲンSASロイヤルホテル(現:Radisson Blu Royal Hotel)の設計に際して、1958年にデザイン。画期的な手法と独特のフォルム。体をすっぽり包み込む、卵を思わせるその形状からエッグと名付けられたユニークな作品。

item: LCW  
designer: Charles Eames

episode: 1940年のオーガニック家具デザインコンペにて3次元成型プライウッドで革新的なデザインを実現した後、医者知人の依頼により戦時中の医療用添え木をプライウッドで成型する。人間の身体のメカニズムを学び取り入れ、各パーツ毎に体を支える画期的な椅子が完成。



## a set of furniture



item: Free form sofa  
designer: Isamu Noguchi

episode: 彫刻家である彼らしい、有機的なライン。ノグチ造形の原点でもある「対象となる線や形を作らない」「有機的な線や面の組み合わせから奇跡的な美しさを表現する」ことがそのまま表現された作品。河原で磨かれた小石のような趣が感じられる。

item: Three legged shell chair designer:  
Hans・J・Wegner

episode: 1963年に発表されるが、その時点では商品化されず、1989年にウェグナー77歳を記念した展覧会に際し26年ぶりに試作、1998年に初めて商品化された。成型合板の組み合わせによる、美しい曲線が魅力的。



item: Arco lamp  
designer: Achille Castiglioni

episode: 重厚な大理石ベースからステンレスのアームが美しいアーチ(=アルコ)を描く事から、この名前がつけられた。アッキーレとピエル・ジャコモのカスティリオーニ兄弟による1962年の作品であり、近代照明デザインの名作。



## concept

「ケアというクリエイティブな仕事は  
クリエイティブな空間でこそ産まれる」

在宅療養は最も創造的な仕事だと思います。そこには、人それぞれの「ものがたり」があり、生活があるからです。クリエイティブな空間だからこそ生まれるアイデア、ひらめきがあります。その人らしい暮らしを支えるために、私たちは常に創造的な思考や発想、行動を目指します。

社会福祉法人 福祉楽団 飯田大輔

「ミーティングを行うのに  
飲みものがなきゃ始まらないでしょ」

オランダで活躍する地域看護チームBuurtzorg(ビュートゾルフ)。ミーティングの場には、いつも美味しいコーヒーと甘いお菓子が用意されています。フラットな組織体型で、チームとして最高のパフォーマンスを生むためにしっかりとやりたいことを言う、短時間で効率的かつ充実したミーティングを行うためのアイデアです。

オランダ Buurtzorg

「快適な温熱環境の下では  
誰もが活発に動き出す」

ある動物園のオランウータンは、いつも同じ場所から動かなかったそうです。そこで、園舎の温熱環境を調べてみると、その場所だけが快適な場所だったことが分かりました。そこで園舎全体を快適な場所にしてみましたところ、元気に動き回るようになりました。人も同じだと思います。快適な空間にいと、自然と動き回り、コミュニケーションが活発になり、独創的なアイデアが生まれるはずですよ。

札幌市立大学 斉藤雅也